

オナリ座の微笑み

ほほえ

新 秋田逍遙

文・写真 / 津島修三

第20回

桂さんが抱いているのは、館内で放し飼いにしているオナリ座のアイドル、ウサギのてっぴー。ウサギのいる映画館としても話題になった。てっぴーに会いたいためだけに東京からきた人もいる

東京出身の切替 桂(きりかえ・かつら)さんは、千葉でご主人と通信工事の会社を営んでいた。

ご主人が震災復興支援の仕事で岩手で仕事をしていた時に、大館にもまとまった仕事があると声を掛けてくれた人がいて、2年ほど大館に単身赴任していた。いっそ大館に事務所兼住居を構えようかと、格安の物件を探して大館駅から歩いてきてすぐに目に留まったのが、旧オナリ座(御成座)の建物だった。廃業して9年、放置されたままになっていた映画館。建物内外の傷みは激しいものの、スクリーンは以前のままだったしフィルム映写機も使える状態だった。あくまで自宅として借りる前提だったが、もともと映画好きだったご主人は即断でこの物件に決めた。平成25年のことだった。

本業の事務所として使うためにリフォーム工事を始めると、「オナリ座が復活するらしい」といううわさが街に流れるようになった。そんな周囲の期待に背

中を押されるようにして、ご主人はまんざらでもなくなったのか、オナリ座は映画館として奇的に蘇ることになった。

復活したのは平成26年7月。今はフィルム映写機とプロジェクトアターを併用し、比較的新しいブルーレイの作品も上映する。最新作や大ヒット作の上映館ではなく、いわゆる「名画座スタイル」だ。桂さんとご主人、それに映写技師の3人で上映作品を決めている。映画好きが好みそうな渋めの上映作品チョイスだが、それでも観客数は一日で一桁にとどまることもある。映画館専業では絶対にまかない切れない。本業の企業体力に頼つての営業だ。館内を無料で見学してもらったり、貸館営業やイベントへの会場提供など、長く親しまれる映画館にするための経営努力に余念がない。

大館駅から歩いて3分、休日に電車に乗ってふらりと訪れてみたい名画座だ。新しいオーナーに二度目の命を与えてもらって、一番喜んでるのはオナリ座という映画館そのものかもしれない。